

第 47 回 栗東市中小企業振興会議 会議概要

■日時：令和 8 年 8 月 5 日（水） 午後 3 時 00 分～午後 4 時 10 分

■場所：栗東市危機管理センター 3 階大研修室

■出席：《委員》

近藤宏一委員（会長）、田中康人委員（副会長）、田中義信委員、吉田幸司委員、
藤田裕人委員、藤澤昇委員、武田京子委員、宮島正貴委員、栗田但馬委員

《オブザーバー》

栗東市商工会担当

《事務局》

環境経済部部長、商工観光労政課課長、商工観光労政課課長補佐、商工観光労政課
事務局担当

■欠席：東郷鐘吾委員

1. 開会

（商工観光労政課課長）

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

（近藤会長あいさつ 省略）

4. 委員紹介について

（各自自己紹介）

5. 会議の公開にかかる取り扱いについて

栗東市附属機関等の会議の公開に関する規則第 3 条により、公開決定

6. 報告事項

（1）第二期栗東市商工振興ビジョンロードマップに係る進捗状況について

○事務局説明（省略）

【おもな意見交換】

会 長：労働環境改善投資の補助やデジタル技術導入への支援は、補助対象になっている事

業者は同じ支援が重なっているのか、別の補助かの傾向は把握されているか。

事務局：「労働環境改善投資への補助」「デジタル技術導入への支援」と別の名称で記載があるが、行った事業としては同義とし、デジタル化促進事業という 1 つの事業であり、それを 2 つの項目に両方記載しているということである。

委員：R8 年度が始まり半年ほど経つが、ロードマップの R8 年の計画が未定（記載なし）の部分についてはなぜか。計画が未定なのか、記入漏れで資料に落とし込めていないのか。

事務局：現在分かる範囲で記載している。

まちゼミなどは、商工会に実施をお願いするため、数字（計画値）はこれから入ってくることとなる。

他にも、関係部署との連携が必要であり、現在協議中であるため、現在はまだ記載できない。

委員：その数字はいつごろ入ってくるのか。

事務局：今回の会議次第にも記載の通り、現在報告させていただいているのは R7 年度実績についてであり、この実績を踏まえて、委員の皆様方からご意見いただいて今年度の取り組みに反映させていただきたいというのが今回の会議の趣旨。

また、本年度の主な事業については、後ほどの説明を踏まえて、この辺りの数字を入れていきたいと考えている。

7. 協議事項

（1）今年度の主な実施事業の概要（案）について

1. 馬のまち PR 支援委託事業

○事務局説明（省略）

副会長：以前、馬カードの配布はあったがゲーム系キャラクターが関連しているのは特殊だと思う。他市での過去実施の例などお教えいただければ。

事務局：過去に、白井市（千葉県）、笠松町（岐阜県）、美浦村（茨城県）で実施された。

参加店舗は概ね売り上げ上昇、多くの店舗で予定枚数の配布が完了していると伺っている。

副会長：各市の配布枚数はどれくらいか。

事務局：笠松町は3万枚ほどと聞いている。

本市の配布枚数は、関係部署等との協議の上決定した。

他市町村での開催の例などを踏まえると、多くのファンの集客が見込めると思うので、どれだけの効果が得られるのか非常に楽しみである。

副会長：各店舗への傾斜配分等カード配布に関しては。

事務局：500円で1枚配布し、1会計上限5枚までという方向性で話を進めている。

委員：以前実施の馬カード配布の際は、配布スピードの差が顕著に出ていた印象がある。

そのため、店舗ごとで傾斜はつけるべきであると思うが、せっかく栗東に足を運んでいただけということで普段行かない、行けないような店舗を訪れ、消費に繋がってほしい。

事務局：今回は、中小店舗に立ち寄っていただきたいという思いもあり、大型店（店舗面積千平米以上）を対象外としている。

また、周遊性を持たせるため、スタンプラリーを同時に実施する。

このような動機を作りながら、車で来られない方などにも配慮しながら調整する。

会長：普段行かないような店舗への誘導という面で、足を運びやすい店舗は先にカード在庫がなくなってしまうなどの設定にするのも一つだと思う。

その面で、傾斜配分はあってよいと思うが、必ずしも、多くの枚数の配布見込みのある店舗を最後まで残す必要もないと思う。

特設HPのマップのページには、各店舗へのアクセスと駐車場の案内は入れた方が、混乱防止という観点からもよいと思う。

2. 栗東市中小企業者等物価高騰対策デジタル化促進支援事業

○事務局説明（省略）

委員：昨年度募集開始から3日ほどで終了したものか。

事務局：その通り。非常に人気のある事業。

会 長：そういった事情を踏まえて昨年度の対象者を対象外にしているのか。

事務局：その通り。

委 員：電子化することによって、募集開始後すぐに申し込みが重なり、サーバーがパンクする可能性がある。
添付ファイルが重い人などが送っている間に、別の方を受け付けるといったことも起こりうるため、対策が必要だと思う。

事務局：電子化による想定トラブルを踏まえながら、商工会と一緒に制度設計、準備を進めていきたいと思う。

会 長：電子申請のみにするのならば、申請が難しい人は窓口で足を運び、その場で申請のサポートを行うのも一つの案である。

3. 学生によるフィールドワーク調査

○事務局説明（省略）

委 員：コンサルタントと学生での調査はなにが違うのか。

事務局：これまでとは違った切り口で、学生ならではのデータの収集に期待している。
アンケートだけでなく、聞き込み調査等で市民の生の声を聞いてもらいたい。

会 長：昨年までは、基本的にアンケート調査を行っていたが、アンケートでは平たい情報は集まるが、深掘りができないと思っている。
大人よりも学生と話す方が気楽にお話しいただけれると思うので、市民の皆様の率直な声（より具体的な意見）をいろいろ聞き取る。

委 員：栗東市はイベントもなければ商業施設、飲食店も全然ない。ただ人口は増加しているのが現状。そういった本市が抱えている現状を学生に知っていただいた状態で調査していただければと思う。改善のためのヒントを出していただきたい。

委員：フィールドワークは、空きテナントの調査というイメージだったが。

事務局：空きテナントに関する調査も想定するが、それだけに限らず調査していただけるとありがたい。

委員：調査の時間（2時間×10日）を鑑みると、時間が限られており、調査内容を絞らないと中途半端なデータしか集まらないと思う。

会長：この日程や時間は予算算出上の概算であり、実情に応じて実施することとなる。

○その他

委員：今年度実施事業は商工振興ビジョンロードマップのどこに位置（関連）するのか。

事務局：物価高騰対策など、緊急性のものは、必ずしも全部反映させられないことや、「馬のまちPR事業」→「賑わい創出」など、どうしても後付けになってしまう可能性もある。

委員：ロードマップの実績には組み込んでいくのか。

事務局：実績報告として入れ込んでいくことになる。また個別にそれぞれの事業ごとに実績報告、評価検証ができるようにしていく。

会長：次回からはロードマップに入れていただく方がわかりやすいと思う。

（2）令和8年度中小企業振興会議スケジュール（案）について

○事務局説明（省略）

異議なし

8. 閉会

（田中副会長あいさつ 省略）